

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 東ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2017_022_kani=true&lievosvoCd=2295400077-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の利用者様がその晩年を自分らしく生き生きと過ごす場所を実現する為にスタッフ一人一人が利用者様にとってかけがえのない「あかり」のような存在になるようにと、いつも職員に伝えています。
又、家族様も「あかり」を選んでよかったと思えるように関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が地域住民であり、また周辺へのネットワークが形成されていて、例えば家族の寄附のタオルで雑巾を縫いだめて保育園に届けたりと、本人の有用感も高めつつ、地域と信頼関係ある運営がおこなえています。また以前から親交のある医師と、隣で開業する歯科医2名には運営推進会議で毎回、専門的な助言や家族の個人的な質問にも快く対応してもらえ、また同法人のデイサービスが越してきたことで、隣近所だった人と以前より頻繁に会えることも「地域とのつきあい」の継続につながっています。隔月発行の「あかり通信」には「職員のメッセージコーナーがほしい」といった積極的意見も寄せられ、家族との関係も円滑です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員入社時に文書にて伝え共有している。 また、日々の中での定着として、時折振り返りを行っている。 ・リーダー研修を通じリーダーから日々伝える努力をしている。	理念の共有は大切なこととして、本年は特に人材育成に力を入れています。リーダー9名(内2名はデイサービス職員)が2ヶ月に1度集まり、すでに3回終えており、一部職員の姿勢や言動にも変化がみられ、順調に進捗しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常的に行っている。	家族の寄附のタオルで雑巾を縫いだめて、クリスマスの時期にプレゼントとして保育園に届けたりと、本人の有用感も高めつつ、地域と関係をつくっています。また同法人のデイサービスが越してきたことで、隣近所だった人と以前より頻繁に会うことができるようになっていきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 ・介護相談には常に応じている。 ・他グループホーム事業所の職員の見学や、意見交換なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。 ・連携して下さる医師、歯科医師があり、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしていく。	行政、地域、家族と万遍なくメンバーを募り、また家族希望で開催の曜日を替えることで家族出席も2~3名あり、隔月開催できています。玄関に新たに洗面所を取り付けていますが、これは運営推進会議で挙げた「感染症対策」への協議結果です。	運営推進会議で話し合った内容をすべての家族と共有できるよう、紙媒体で届けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・認定調査や更新申請時にやり取りをしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。 ・運営推進会議へは毎回出向いてくださっています。 ・相談員の訪問にて書面での報告も受けています。	市役所長寿課と地域包括支援センターは運営推進会議が19時開始にも拘らず、毎回足を運んでくださっています。またデイサービスの老朽化に伴う移転や、負担割合等の制度変更には積極的に解説や助言をくださり、恩恵を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。 ・言葉による拘束について、今後強化をして努めていきたい。 ・定期的な研修で確認している。	書面配布で知識を共有していますが、外部研修や所内研修は実施されていません。玄関は日中常にオープンで、どちらかというと利用者が鍵をかけてしまうことがあるほどです。また職員の変化に気づけば管理者から声をかけて、早めの対応に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部、内部研修を通じ学ぶ機会を就かっており、内出血発見シートを用いて検討をしている。 ・ヒヤリ、事故報告は積極的に行うよう指導している。 ・職員との面談を通じストレスチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 外部で行われた「成年後見人制度」の研修を通じ理解を深めている。 後見人への報告を折々に行い、本人の希望や現況を伝えている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に分かりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 今期4月には、契約事項変更の為、家族全員に説明をし署名を頂いている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を全員のご家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。 	<p>家族会はなく、「なんでも言ってくださいね」と伝え、面会での会話が主となっています。そのため、利用者本人のことでなく家族自身の悩みや相談も入り、そこから信頼関係が築けたケースもあります。駐車の仕方についてや、「ボランティアにきたい」といった意見も挙がっています。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ユニット会議 個別面談 スタッフ懇親会 等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。 	<p>賞与の際の代表者の個人面談、管理者が気づいたときおこなう随時の面談と、話を聞いてもらえる機会は比較的多くあります。本年は通常の会議に加え、リーダー研修での討議、意見交換、宿題もあって、さらに管理者に様々な進言や相談が舞い込んでいます。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 税理士、労務士の関与による助言等により適切な設備を図るように努めている。 適切な内部規定を作成し整備するように図っている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。 定期的な面談や、個別の相談に柔軟に応じ、希望に添うように努めている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 他施設の職員の訪問があり、お互いの良いサービスを取り入れる取り組みをしている。 地域密着型サービスグループの懇親会を行っている。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に努めている。 ・一日も早くなじみの関係となれるように、職員一同声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅のケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。(事前面談) ・本人、ご家族との面談で丁寧に聞き取り、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯量等を一緒に行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらおうように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人様と家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良時や受診時に、家族と連絡を密に取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居されても以前の友人や近所の方の面会に来て下さる方を拒まず受け入れている ・自宅の近所の老人会などにも参加している ・同敷地内のGHの利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。	毎日の晩酌を楽しみにしたり、職員に声をかけられて一緒におこなう洗濯干しで気持ちを充足させたりと、本人のこれまでの暮らし向きや性格に配慮した働きかけがあります。また、利用者の中には入居前のデイサービスを続けたいとして、自費で通っていた例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションのために、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や転居先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなった方の家族もイベントの参加への呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとしての外出を主としている。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。	発語があった事は家族と連携を図りながら実現できるように進め、また時には折衷案を示して折り合いをつけています。本人の理解力の度合いはあるものの、病気について等一応説明するようにして、合意の下進捗がスムーズになる例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来るだけ細かな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。 ・家族、知人の面会時などには聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 ・有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題を各ユニットリーダーよりあげて、ユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画を作成し、内容を共有している。	介護支援専門員が業務数を調整することで、同建物内の居宅介護支援事業所から当事業所と兼務することが叶っています。外部評価にも同席し、見学では利用者や談笑したり、本人のことをよく理解している様子から、当事業所勤務でなくとも内容に支障がないことが覗えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの報告を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出、工作、行事、編み物、習字、ティサービスへの訪問等、工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(音楽、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配属している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の代行は行っている。	事業所の方針もあって従来のかかりつけ医を継続する人ばかりで、受診の付き添いも基本家族にお願いしています。家族には事業所作成の書面を携えてもらえ、医師も該当欄に記載くださり、情報共有を確実にしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 ・医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 ・受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・今年度は2名の方の看取りを行っている。「一人にしない、させない」を基本にし、皆で泊まりこみ行った。	「独りで逝かせない」との考えを以て、実際には家族にも泊り込みをお願いし、無理なときは管理者をはじめ夜勤者以外の者が隣に寄り添うことを旨としています。看取りに近い状態が3年近く続く人もいますが、非常勤看護師2名と医師の訪問診療で安定した状態を保っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・感染委員、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練のなかにも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・新たに、風水害対策マニュアルの作成も検討している。	災害訓練は義務2回に追加して、計年4回と増やしています。地域の訓練にも参加していて、無事を知らせる黄色の旗を出し忘れると近所から声がかかることもあります。9月に引越してきたデイサービスとは既に1度、合同で開催していて、今後も協力しての実施を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉掛けを行っている(方言も含む) ・その方のNGワードなど模索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている。 	<p>狎れあいが進んでの「～ちゃん」呼びは家族から指摘を受け、是正を徹底させています。一方で突然「○○さんいる～」と玄関から声が入ったり、電話で直接的な問い合わせがあったり等個人情報保護については一旦オブラートに包んだり、間をとることが自然な形で定着しています。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず、本人の希望、または選択ができる様聞いてから実施している。 ・本人からの希望も、職員に伝わりやすい様にしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設としてではなく、常に寄り添う人としてその方に合わせている。 ・常に、その方の希望に沿っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 ・起床時の整容、又都度身だしなみを整えている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材などを見せ、どのような味付けをしていたか、話をしたり、食べたい物を聞いたりしてメニューを決めている。 ・料理に関わるのが好きな方もおり、野菜の皮 	<p>利用者の中にはエプロン姿で意気揚々と手伝う人もいます。一つの量は少な目で種類が多く、家庭的なメニューが特徴です。代表者の「最期の晩餐という意識をもってしっかりね」という激励で、若い職員も尽力していますが、現状は人に因って差がでてしまうのが課題です。</p>	<p>例えば検食簿に褒める内容を1点、向上内容(課題)で1点と、各1点ずつ挙げることを義務化し、「指摘しやすく」「気づきやすく」していくことも検討ください。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加のある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少し量を多めにした個々の状態に合わせ提供をしている。 ・水分摂取では活動後には提供をし、好みも 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 ・年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。 ・失敗のない方は紙パンツから布パンツに移行してパットをやめるなどする。 	消耗品のボックスや廃棄の為の備品が整然と並び、5Sが行き届いたトイレです。「布パンツありき」とは考えていず、「思い切り笑える」「くしゃみも安心」「捨てられてラク」という本人の思いにフォーカスし、適したパット選びに努めており、「笑顔でいられる」暮らしを実現させています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食にはヨーグルトを提供し野菜や煮物のメニューを多くしている。(繊維質 なもの) ・毎日30分の体操を行っている(呼吸法等) ・水分摂取を行っている。(本人の好む物) 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状態や要望に合わせて、声かけをし、入浴、シャワー浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方、冷え対策として、足浴を行っている。 	窓がないものの、機械による乾燥を念入りにおこない、カビは見られません。入浴の目安は週2日ですが、希望で3日の人もいて、本人の好みで増やすことにも対応しています。また一時水虫が増えてしまい、対策として竹酢水を使った足浴を夕方毎日おこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食後は休息の時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は休息していただいている。 ・個々に応じた時間に就寝して頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の間違えがないように、内服時間別に仕切りを使用して薬箱の保管をしている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の出来る事、得意な事等を役割りとして毎日行ってもらっている。 ・ごみ箱づくり、新聞たたみ、雑巾縫い、窓閉め等々 ・お酒の提供もしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族が本人の希望を把握して外出することもしている。 	足りない食材があればスーパーマーケットへ、その人の気分が乗れば100円均一へと気軽に出かけることのできる立地に助けられ、また駐車場で外気浴や体操もおこなっています。計画立てた外出企画はありませんが、花見と大代のジャンボ干支見学は恒例となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出した際は、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをしていた。 ・自分で持っていたい方もいる為、多すぎない程度に保持している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・届いた手紙はご本人に渡し、読めない場合はこちらで読むこともある。 ・個々に宛名書きを代筆したりし、手紙を出す機会をもうけている。 ・電話も事務所に来られ、自らが電話をしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁画作りや季節の花を飾ったりしている。 	整理箱や暖簾、愛らしい陶器や手作り品がそこかしこに見られ、温もり感が高い共用空間です。洗濯ものたたみだけでなく、長く引きこもりにあった人と洗濯ものを干したり、男性に毛糸のポンポンづくりをお願いしたりと、居場所づくりに配慮したケアサービスが実施されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・活動室がデイサービスの場とはなったが、自由にディへ出かけたり、エントランスホール、事務所施設全体を自由に行き来している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心して過ごして頂いている。 ・表札は自ら手描きして、飾り付けをしている。 	背が高く、やや不安定にも映るサイドライトを持ち込んでいることから、「(リスク的に)大丈夫ですか?」と尋ねたところ、「ご本人のお気に入りなので職員が注意して使ってもらっています」との回答があり、本人本位の暮らしがあることが伝わります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりを設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図るようにしている。 		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 西ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=2295400077-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の利用者様がその晩年を自分らしく生き生きと過ごす場所を実現する為にスタッフ一人一人が利用者様にとってかけがえのない「あかり」のような存在になるようにと、いつも職員に伝えています。
又、家族様も「あかり」を選んでよかったと思えるように関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が地域住民であり、また周辺へのネットワークが形成されていて、例えば家族の寄附のタオルで雑巾を縫いだめて保育園に届けたりと、本人の有用感も高めつつ、地域と信頼関係ある運営がおこなえています。また以前から親交のある医師と、隣で開業する歯科医2名には運営推進会議で毎回、専門的な助言や家族の個人的な質問にも快く対応してもらえ、また同法人のデイサービスが越してきたことで、隣近所だった人と以前より頻繁に会えることも「地域とのつきあい」の継続につながっています。隔月発行の「あかり通信」には「職員のメッセージコーナーがほしい」といった積極的意見も寄せられ、家族との関係も円滑です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員入社時に文書にて伝え共有している。 また、日々の中での定着として、時折振り返りを行っている。 ・リーダー研修を通じリーダーから日々伝える努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 ・介護相談には常に応じている。 ・他グループホーム事業所の職員の見学や、意見交換なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。 ・連携して下さる医師、歯科医師があり、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・認定調査や更新申請時にやり取りをしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。 ・運営推進会議へは毎回出向いてくださっています。 ・相談員の訪問にて書面での報告も受けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。 ・言葉による拘束について、今後強化をして努めていきたい。 ・定期的な研修で確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部、内部研修を通じ学ぶ機会を就かっており、内出血発見シートを用いて検討をしている。 ・ヒヤリ、事故報告は積極的に行うよう指導している。 ・職員との面談を通じストレスチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 外部で行われた「成年後見人制度」の研修を通じ理解を深めている。 後見人への報告を折々に行い、本人の希望や現況を伝えている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に分かりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 今期4月には、契約事項変更の為、家族全員に説明をし署名を頂いている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を全員のご家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。 		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ユニット会議 個別面談 スタッフ懇親会 等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 税理士、労務士の関与による助言等により適切な設備を図るように努めている。 適切な内部規定を作成し整備するように図っている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。 定期的な面談や、個別の相談に柔軟に応じ、希望に添うように努めている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 他施設の職員の訪問があり、お互いの良いサービスを取り入れる取り組みをしている。 地域密着型サービスグループの懇親会を行っている。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に努めている。 ・一日も早くなじみの関係となれるように、職員一同声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅のケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。(事前面談) ・本人、ご家族との面談で丁寧に関わり、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯量等を一緒に行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらおうように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人様と家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良時や受診時に、家族と連絡を密に取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居されても以前の友人や近所の方の面会に来て下さる方を拒まず受け入れている ・自宅の近所の老人会などにも参加している ・同敷地内のGHの利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションのために、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や転居先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなった方の家族もイベントの参加への呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとしての外出を主としている。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来るだけ細かな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。 ・家族、知人の面会時などには聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 ・有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題点を各ユニットリーダーよりあげて、ユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画を作成し、内容を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの報告を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出、工作、行事、編み物、習字、デイサービスへの訪問等、工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(音楽、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配属している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の代行は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 ・医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 ・受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・今年度は2名の方の看取りを行っている。「一人にしない、させない」を基本にし、皆で泊まりこみ行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・感染委員、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練のなかにも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・新たに、風水害対策マニュアルの作成も検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉掛けを行っている(方言も含む) ・その方のNGワードなど模索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・必ず、本人の希望、または選択ができる様聞いてから実施している。 ・本人からの希望も、職員に伝わりやすい様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・施設としてではなく、常に寄り添う人としてその方に合わせている。 ・常に、その方の希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 ・起床時の整容、又都度身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材などを見せ、どのような味付けをしていたか、話をしたり、食べたい物を聞いたりしてメニューを決めている。 ・料理に関わるのが好きな方もおり、野菜の皮		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・体重増加のある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少し量を多めにした個々の状態に合わせ提供をしている。 ・水分摂取では活動後には提供をし、好みも		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 ・年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。 ・失敗のない方は紙パンツから布パンツに移行してパットをやめるなどする。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食にはヨーグルトを提供し野菜や煮物のメニューを多くしている。(繊維質 なもの) ・毎日30分の体操を行っている(呼吸法等) ・水分摂取を行っている。(本人の好む物) 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状態や要望に合わせて、声かけをし、入浴、シャワー浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方、冷え対策とし、足浴を行っている。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食後は休息の時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は休息していただいている。 ・個々に応じた時間に就寝して頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の間違えがないように、内服時間別に仕切りを使用して薬箱の保管をしている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の出来る事、得意な事等を役割りとして毎日行ってもらっている。 ・ゴミ箱づくり、新聞たたみ、雑巾縫い、窓閉め等々 ・お酒の提供もしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族が本人の希望を把握して外出することもしている。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出した際は、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをしていたりしている。 ・自分で持っていたい方もいる為、多すぎない程度に保管している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・届いた手紙はご本人に渡し、読めない場合はこちらで読むこともある。 ・個々に宛名書きを代筆したりし、手紙を出す機会をもうけている。 ・電話も事務所に来られ、自らが電話をしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁画作りや季節の花を飾ったりしている。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・活動室がデイサービスの場とはなったが、自由にディへ出かけたり、エントランスホール、事務所施設全体を自由に行き来している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心して過ごして頂いている。 ・表札は自ら手描きして、飾り付けをしている。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりを設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図るようにしている。 		